

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Summer 2025

Vol.50

特集

祝50号「はじめまして」から12年



Chi'yoko

特集 | 祝50号「はじめまして」から12年



創刊号の表紙

2013年4月に始動したNPO法人いいだ人形劇センターの
情報発信の一つとして創刊したのが「人形劇のまち飯田」
の季刊情報誌『Dogushi 胴串』です。同年5月の発行から
12年をかけて本号で通巻50号となりました。

『胴串どぐし』とは、人形の頭の首の下に
ついている棒のこと。心串ともいい、頭の中核
部を担います。人形劇のまち飯田が、日本
の中心に位置すること、さらには「いいだ人形
劇センター」が本拠地となって人形劇だけで
なく、飯田の情報を発信していくという想い
を込めて、季刊情報誌を『Dogushi 胴串』と
名付けました。

毎回の特集記事では、年間のイベントスケ
ジュールや国内外のフェスティバルレポート、い
いだ人形劇センターが市民と制作する舞台
作品の進
捗状況な
ど、多岐に
わたる内容
を取り上げ
ました。

市民と制作した舞台作品
『人魚姫』の特集記事(第26号)

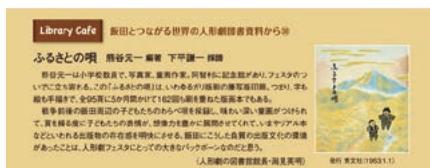


文楽人形のかしらをつくる現場を
取材した「いいだ再発見」(第7号)

また、いいだ人
形劇センター主
催の人形劇講
座を徹底取材
した「突撃！人
形劇のゲ・ン・
バ」、地元市民
劇団の活動紹
介「楽しい仲間
がやってきた」、
人物や建物、ま
ちなかの風景な
どを取材する
「いいだ再発見」
など飯田の今を
伝える記事を掲載してきました。

特筆すべきは全国の人形劇団・関係団
体の皆さまから寄稿いただく連載企画で
す。専門的な知識を得られるもの、飯田に
寄せる思いなどさまざまな視点で綴って
いただいています。なかでも、創刊号から続く
「Library Cafe 飯田」とつながる世界の人形
劇図書資料からは、滋賀県にある人形劇
の図書館館長・湯見英明さんが珠玉の一冊
を紹介してくださっています。

コンパクトなサイズにたくさんさんの情報を
ぎゅっと詰め込んだ『Dogushi 胴串』。これ
からも飯田のこと、人形劇のこと、情報満
載でお届けします。見かけたらぜひ手に取
ってご覧ください。



創刊号から続く連載企画「Library Cafe」

誌面を彩った魅力的な連載企画

臚 人形たちのカーニバル 創刊号から第8号

人形劇研究家・宇野小四郎さんによるエッセイ。
2015年4月逝去により連載終了となりました

わかる!! 人形劇用語 創刊号から第20号

人形芝居燕屋くすのき燕さんによる用語解説。
ポイントをつかんだイラスト入りで紹介しました

View of IIDA 創刊号から第44号

人形劇に関する事象を写真で切り取り、
飯田の今を伝えました

AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市 第21号から第44号

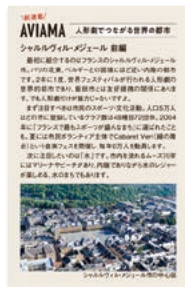
人形劇の活動を支援する都市・自治体の連携協力体制を構築する
国際ネットワーク「AVIAMA アヴィアマ」の加盟都市を紹介しました。



わかる!! 人形劇用語



臚 人形たちのカーニバル



AVIAMA
人形劇でつながる世界の都市



すべての道は飯田へ通ず



ダコタのIIDA日記

日本列島人形劇祭の旅

現在の好評連載企画

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から / 創刊号より

日本ウニマ通信 世界みてある記 / 創刊号より年1~2回

全人協通信 専門人形劇団事情 / 第2号より年1~2回

劇人協会通信 映像と人形・人形劇 / 第3号より年1~2回

すべての道は飯田へ通ず / 第12号より

ダコタのIIDA日記 / 第40号より

日本列島人形劇祭の旅 / 第45号より

開催中 表紙原画展 8月19日(火)まで 川本喜八郎人形美術館2F交流ゾーン

創刊号から表紙絵を描いてくださっている飯田市の会社員・井原千代子さんの「Dogushi表紙原画展」を開催。これまでの作品の中から厳選して20点が展示されています。ぜひ間近でご覧ください。

- 開館時間: 9時30分~18時30分 (入館は18時まで) ■ 水曜休館
- 観覧無料 ※3Fギャラリーをご覧になる方は入館料が必要です



チェコのマテジンカ フェスティバルへ 日本の文化“獅子舞”を上演

いいだ人形劇センター事務局長 後藤 渉



パレード終了後、観客に360度囲まれて上演



閉会式での上演



開会式のパレードに獅子頭を持って参加

チェコ・リベツで行われたナイブ・ニ人形劇場が主催する『マテジンカフェスティバル 2025』（6月10日〜14日）から招待を受け、開会式と閉会式で獅子舞を上演してきました。

開会式では獅子頭を持ちながらナイブ・ニ人形劇場の入口をスタートし、劇場周辺約1kmを地元の小学生や演者、街を行く人々を巻き込みながらパレード。ゴールの中央広場に到着したところで360度観客に囲まれた中、『獅子舞』の演舞を披露しました。演舞終了と同時に歓声が響きわたり、鳴りやまない拍手に胸が熱くなりました。パフォーマンス後は続々と頭を噛んで欲しい子どもたちがやってきました。期間中は各国の作品を鑑賞しながら、改めて世界の人形劇の凄さを感じました。



昨秋、いいだ人形劇センターが招聘した「ナイブ・ニ人形劇場」のキャストと再会。娘さんと一緒に記念撮影

閉会式はナイブ・ニ人形劇場のホールでの上演でした。昨秋、いいだ人形劇センターが招聘した『ナイブ・ニ人形劇場』の音響・照明スタッフが舞台を華やかに演出してくれました。閉会式は大人の観客が多く、開会式とはまた違った雰囲気での日本の伝統芸能と飯田の文化を発信できました。

マテジンカフェスティバルに参加できたのは昨秋の「せかいの劇場」をはじめ、ナイブ・ニ人形劇場と繋がりを持ち、関係性を深めることができたからこそ。改めて、日本の文化を伝えていく意味を感じることができました。

第39回

すべての道は

飯田へ通ず

『さらなる出会いに…』——人形芝居ぶんぶく 幾田美恵子



夏は飯田！…もう30年以上「人形劇団はんび」の頃からズツと参加しています。豊橋と違い、朝夕の涼しさが心地よい飯田で桃を頼張るのもフェスタの定番です。

さて、ここ2年は大人向け作品「人情噺・ラーメン屋」で参加しました。実は昨年、市内の『七里屋茶房』のマスターがフェスタで観てくださり、何と11月17日(日)にカフェでの上演が決定！そこで2回公演を実施し、お店の常連さんや、一部人形劇



いまだ人形劇フェスタのマスケットキャラクター「ぽお」と一緒に



フェスタがきっかけとなり、飯田で再上演となった作品「人情噺・ラーメン屋」

関係者など皆さんに楽しんでもいただきました。中には「人形劇を初めて観た」と言う方もいて、新たな場所で新たな出会いがあったのはとても嬉しかったです。長年色々な会場で上演していますが「カフェ」というのは初めて。お店のスペースがギリギリで設営に手間取りましたが、美味しいランチとコーヒー付きは何だか得した気分でした。(笑)

お客様がお客様を呼ぶ…何とありがたいことでしょう！人形劇という小さな繋がりではありますが、こうした出会いを大切にこれからも人形劇をお届けしたいと思います。さ、今年は地区公演、どんな出会いがあるのかな？

次号は愛知県蒲郡市の「てしふね」座市川雅子さんです

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑤0

戦争語彙集

ウクライナの人々がロシアの砲撃にさらされる中、一人の詩人が多くの人々の証言を基にまとめた本。そこに避難所となった「リヴィウ人形劇場」が書かれている。人形劇場が子どもたちにとってどんな場であったのか、まるで突然、戦争というものが目の前に降りかかり、人々は、子どもたちの場は、どうなったか、さらにこれは現実なのであろうか。

21世紀の今、日本人にとって、まるで見えていない戦争という大災害が、我々や人形劇にどう関わるのか、それを考えることは非現実的なのか、戦後80年に読まねばならない本があると思えば、まさしくその一冊といえる。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



オスカー・スリヴィンスキー作
ロバート・キャンベル訳著
(2023年 / 岩波書店)

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota

ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴ
イル・メジエールから飯田へ。飯田文化会館で
通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田
での生活の中で見たこと、感じたこと、人と
の出会いなどを綴ります。

地元の 宝の引継ぎ



こんにちは皆さん！

最近、初めて今田人形保存会の総会に参加しました。今田人形座の歴史は江戸時代中頃の1704年(宝永元年)にさかのぼります。大事な伝統なので、今田人形座の宝を一所懸命守るために大勢の人が集まるのは感動しました。

今田人形保存会は秋の奉納上演やいいだ人形劇フェスタなどでの上演と、地域の子どもたちへの指導などさまざまな活動を通じて、今田人形座の宝の大切さを伝えていきます。

しかし、宝を守るために引継ぎすることも必要です。今田人形座と今田人形保存会は座員と保存会の会員を募集していますので、宝の保存を手伝うことに興味があったら是非連絡してください。人数が増えればできることが広がります。

総会では特別上演を見ることができました。

今田人形座の「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」の上演を初めて見ました。本当に素敵な芸術です。三人遣いの共同作業のおかげで人形が生きてくるようになります。

皆さんの力でこの大事な宝を守りましょう！



今田人形座「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」

これまで「傾城阿波鳴門」は学生の上演しか見たことがありませんでした。今回、今田人形座の上演を見て、長く練習を続けた人の操りはとても自然だと感じました。

ルの演目を、
様々な手法
の自作人形
で公演して

旅の公演。

の親父一人

の親父一人

の親父一人

の親父一人

の親父一人

の親父一人

の親父一人

の親父一人



『桃の浮舟』の人形

『工作と旅と』

インドネシアに7年住んで、伝統の影絵芝居ワヤン・クリツを学んだ後、オリジナルの人形を作って、嫁さんと二人でヨーロッパを大道芸でまわったのです。日本に帰って、子どもも加えた4人の一座として、全国各地で公演。子どもが大きくなつてからは、単身赴任の親父一人旅の公演。オリジナルの演目を、様々な手法の自作人形で公演して

全人協通信
専門人形劇団事情⑪

地域劇団の
つづやき

ホケキョ影絵芝居
晴琉屋フン

一般社団法人
全国専門人形劇団協議会(全人協)
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げたいことをめざし、1997年に発足。44劇団が加盟しています。

人形たちとつくるコミュニティスポット

ほっこり

豊丘村で5月31日(土)第2回子育て家庭応援イベントこどもまつり2025、阿智村で6月29日(日)こまんなばマルシェイベントにて「モンスターパペットをつくろう」のワークショップを開催しました。世界に1つだけのモンスターが誕生しました。子どもたちの創造表現は果てしなく、1つ1つのパーツにこだわって作り上げました。

これからもアウトリーチ活動を続け、人形づくりワークショップを行います。イベントや公民館活動の一環で人形づくりワークショップを体験してみませんか。

お問い合わせお待ちしております。



紙コップに目や髪などの自由に飾り付けた「モンスターパペット」

お問い合わせ いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594 E-mail:hokkoripuppet@gmail.com



著者の横顔

ですが、近年は人形は使わず、砂で絵を描きながらの物語や、立てかけたふすま2枚ほどの紙に、墨で大きな絵を描いての話なども。使う曲も嫁さんに頼らずパソコンで自分で作れるようになったし。

とにかく工作が好きなのです。私。電気や機械はだめだけど。服を作ったり、刺繍もするし、帽子を編んだりもする。ホケキヨグッズとして、手描きの手ぬぐい、石粉粘土の人形の置物、檜の茶さじ、版画のポストカード。子どものおもちゃや筆筒も作ったし、知り合いのアトリエを、土壁と瓦屋根で作ったことだってあります。

円空のように、何かを作りながら旅をするの、いいなあって心底思いますわ。無人島暮らしもあこがれるものの、作ったものを見せる他人がいないと、やっぱりねえ。

工作も楽しいけれど、お芝居のお客さんが引き込まれる感じ、その空間の濃密さ。麻薬だと思えます。

はずしたときは、「ごめんなさい」「って叫びながら、走って消えたいけど。」

日本列島 人形劇祭の旅



アートマーケットのメイン会場でのオープニング
パフォーマンス

上演されました。春川人形劇場周辺には仮設舞台が多数設置され、いつ訪れても何かしらの公演が楽しめる環境が整えられていました。今回は特に屋外公演が充実していました。この祭典に向けて、数年前から人形劇に限らず他ジャンルの舞台芸術関係者へも働きかけて準備が進められていたそうです。その結果、人形劇表現の多様性や可能性が感じられ、世界各国の人形劇人との活発な交流もあつた素晴らしいイベントになりました。

またアートマーケットでは、韓国の劇団紹介ブースが多数出展し、韓国語、日本語、英語が飛び交う賑やかな雰囲気でした。大型の屋外ステージでは、春川市長とUNIMA会長の挨拶後に、9作品のダイジェスト公演がありました。観客が3作品ごとに面白かった作品をQRコードで投票できる仕組みが導入されるなど、来場者を飽きさせない工夫も随所に見られました。

日本UNIMA理事・UNIMA評議員 木田敬貴

例年9月に韓国・春川市で実施される人形劇祭は、今年、国際人形劇連盟（UNIMA）の総会が同市で開催されたことに合わせて、5月23日（金）から6月1日（日）にかけて「国際人形劇祭」として大々的に開催されました。公演は「屋内」「屋外」「オフ公演」に分かれ、韓国内の作品を中心に、フランス、スペイン、イタリアなど海外からの作品も多く

春川人形劇祭



屋外のメイン会場



橋の下につくられた会場



韓国人形劇の展示

DATA

春川人形劇祭

1989年に始まった韓国を代表する人形劇の祭典。春川人形劇場を中心に春川市一帯で公演が行われる。2008年には「いいだ人形劇フェスタ」「台湾 雲林国際偶戲節」と東アジア三大人形劇祭友好提携を結んだ



掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

生誕100年 川本喜八郎 記念事業開催中

川本喜八郎の生誕100年を記念して、12月まで川本人形美術館はさまざまな企画を開催しています。テレビ人形劇『三国志』『平家物語』の人形を展示した常設展、人形アニメーション作品等の特別展、月替わりのイベントなど盛りだくさん。8/7(木)～10(日)いいだ人形劇フェスタ2025の期間中は参加証ワッペン提示でどなたでも入館無料でご覧いただけます。



イジトルンカ作品展
8/31まで
『真夏の夜の夢』

- 開館時間：9時30分～18時30分（入館は18時まで）
- 入館料：一般400円、小中高生200円
- 休館日：水曜（祝日は開館）、年末年始

並木 さんぽ

2013年5月の発行から通巻50号となりました。これも原稿をお寄せくださる全国の人形劇団・関係団体の皆さま、手に取ってくださる方々があってこそ。人形劇に関する話題は尽きることはありません。60、70……100号を目指してさまざまな情報をお届けし続けます。次号は2025年10月発行予定です。(帆)